広報はいづか 69 号（平成 23 年２月）

モグモグ・ハラハラ

先月下旬、ウェットランドの管理棟の玄関前に、木をすりつぶしたような繊維くずが点々と落ちていました（写真）。近所の人が時々竹を伐りに来ることはあるのですが、今回はいったい何をしに来たのだろうと、不思議でなりません。気になってあたりを歩き回っていたら、謎が解けました。人の仕業ではなかったのです。

浄化槽の横の法面が、浅く広く掘り返されていました。明らかにイノシシの仕業です。掘り跡のそばには、同じような繊維くずがたくさん落ちていました。イノシシが笹の地下茎を噛んで、汁を吸ったあと吐き出した繊維くずにちがいありません。この時期の竹や笹の地下茎は、タケノコの生長への備え、ならびに凍結防止のため、糖分がたっぷりたくわえられているのでしょう。

イノシシがこういう行動をすることは、井上雅央著「これならできる獣害対策」（農文協）という本のなかで紹介されています。ただし、その表現は「ガシガシ・ペッ」となっていて、今回見つけた繊維くずの印象とは異なります。歩きながら少しずつこぼしていったような痕跡でした。つまり「モグモグ・ハラハラ」です。

上記の本は、獣害の根本的な原因と対策を教えてくれる、たいへんためになる本ですが、同時に、読んでいてとても面白い本でもあります。奈良弁の講演口調そのままを文字にしてありますので、普段本を読まない人でも、講演を聴くような気分ですらすら読めると思います。みなさまにも、ぜひ一読をお勧めします。